

20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(新版)の紹介

著者	狩野 謙一
雑誌名	静岡地学
巻	101
ページ	45-45
発行年	2010-06-20
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024756

20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(新版)の紹介

産業技術研究所地質調査総合センター(旧・地質調査所)発行の20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」が、35年ぶりに改訂された(以下、新版)。1975年の旧版(以下、旧版)、および1986年の20万分の1静岡県地質図(以下、県地質図)と比較しながら、この新版を紹介しよう。

図幅北西側に位置する四万十帯の四万十帯は、1970年代までは詳細な時代が不明な白亜系および古第三系の地向斜堆積物と解釈されてきた。1980年代以降の調査によって、四万十帯はプレート沈み込みに伴う付加体として認識され、放散虫や有孔虫などの微化石を用いて地質年代と地質構造の再検討が進んだ結果を反映して地質図が大改訂された。ただし、笹山断層より西側の四万十帯の担当者の一人は狩野であり、県地質図を小修正しただけである。笹山断層から糸魚川-静岡構造線にかけての瀬戸川帯(大井川帯と竜爪帯を含む)は、褶曲を強調した県地質図とは全く異なり、この新版では付加体を構成する衝上岩体(シート)を区分し、大小の海洋性岩体(岩塊)を認識している。

四万十帯の南側に分布する前弧海盆堆積物の三笠層群、相良層群および掛川層群およびそれらを覆う段丘礫層などについてもより詳しくなっている。ただし、大きな変化はない。

糸魚川-静岡構造線の西側、興津川・富士川流域に分布する南部フォッサマグナの地層の部分も、この地域が本州弧と伊豆弧の衝突域として認識されてきた結果として、より詳細に描かれている。富士川河口活断層帯の認識も、最近の成果である。

図幅北東部の富士山南麓(山頂部は甲府図幅)、愛鷹山および箱根火山西部の火山地域については大きな変化はないが、年代資料を加えて旧版とは多少異なった層序区分をしている。

図幅東部の伊豆半島については、この間、この地域は年代資料や岩石学的検討、活断層調査などは進展したが、地質図作成を中心とした調査は余り行われてこなかった。このためか、年代資料をふまえた小修正は多数あるものの、旧版とは大きく異なっていない。

旧版、県地質図と比べて大きく変わったのは、アジアプレートとフィリピン海プレートの境界部となる駿河湾底および遠州灘沖の海底地質が明らかにされてきたことである。その結果として、駿河トラフの伊豆側と静岡側の海底地形の相違を反映した堆積層の相違が描かれている。また、静岡側斜面には褶曲構造が認定されている。

最近の20万分の1地質図幅は、裏面一杯に地質の概要説明と文献および層序区分図、年代表などが掲載されていて、便利である。この新版も同様で、最新の成果の紹介および地質区分の方針などが示され、利用者の理解を助けている。

この図幅を資料として使用するに当たっての文献引用例は、以下のとおりである。

杉山雄一・水野清秀・狩野謙一・村松 武・松田時彦・石塚 治・及川輝樹・高田 亮・荒井晃作・岡村行信・実松健造・高橋正明・尾山洋一・駒澤正夫(2010): 20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(第2版)。産業技術総合研究所地質調査総合センター。

購入方法等の詳細は、<http://www.gsj.jp/Map/>を参照されたい。

狩野謙一・静岡大学理学部